



中部電力パワーグリッド

〇〇支社管内における 請負高圧感電負傷災害について

2024年6月19日
配電部

発生概要

- 1 発生概要 被災者は、高圧自家用新設工事（VCT・WHM付工事）において、主任技術者による耐圧試験が完了し、作業着手に了解いただけたため、高圧計器工事に着手した。主任技術者は、被災者の高圧計器工事作業中にSOGリレー点検を実施するため、ポータブル電源と試験器を使用して、SOGリレーへ印加した。通常、制御線のP1（黒線）、P2（白線）を外すべきところ、制御線を繋いだまま、印加したことにより逆圧がかかった。
～以降、推定（本人聞き取りできていないため）～
被災者が先方ケーブルの癖どりをしようとキュービクル内へ入ろうとした時、ケーブル先端が左足小指付け根に接触し流入、体を支えるためにキュービクルへ付いていた右手小指球から流出し、感電した。
- 2 発生日時 2024年6月19日（水）10時35分 （天候：晴れ）
- 3 発生場所 ○○ ○○
- 4 被災者 ○○ ○○ 20代 男性
- 5 傷病名 経過観察のため入院中
- 6 班構成 作業監督者 1名 作業員（被災者） 1名 計2名

被災者の容体

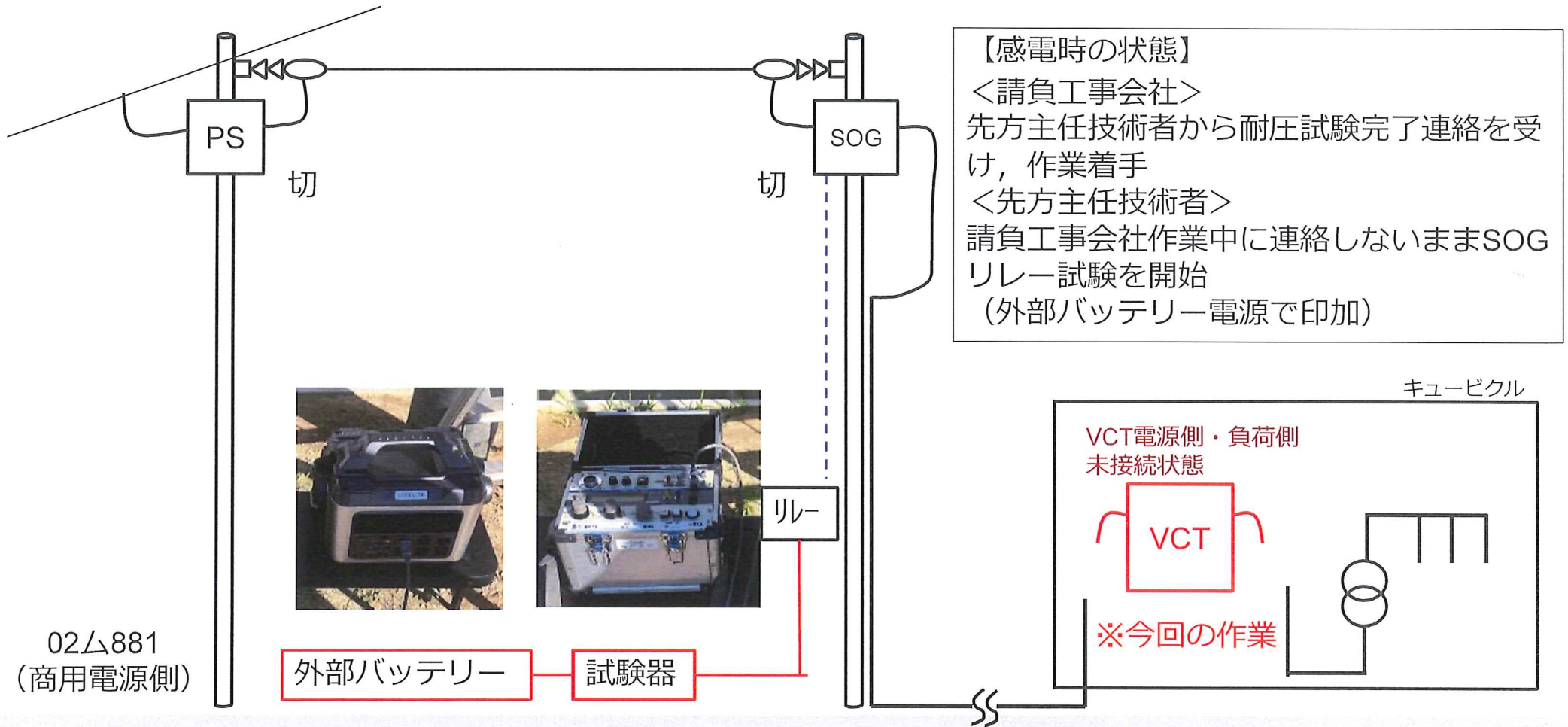
日付	健康状態および検査等
6月19日 13:00	〇〇市民病院のICUに入院し、経過観察中 被災者本人意識あり、会話も可能。
6月19日 17:00	健康状態は上記内容から変化なし。 明日6月20日（木）に精密検査予定。
6月20日 9:00	健康状態良好。朝ごはんも普通の量を摂取。 本日の精密検査良好の場合退院予定。

被災者の流入・流出箇所

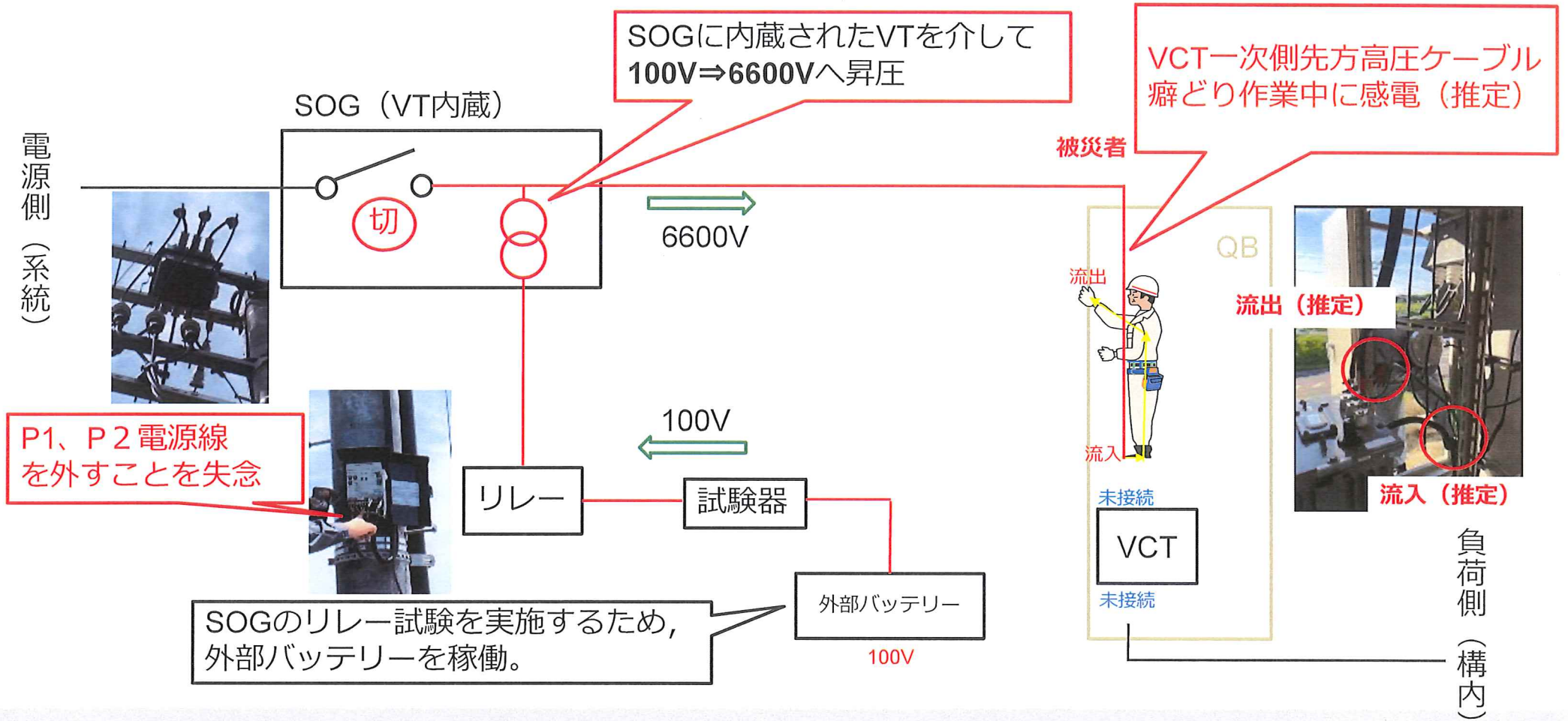
本人への聞き取りができていないため推定



発生状況図



感電発生時の概要図



PASの試験方法について

■メーカーの取説において、VTへ接続する電線は切離し後に試験をすることが定められている（厳守）。現地主技への聞き取りにより、切離し未実施で試験をしていたことが判明している。

メーカー取扱説明書

方向性

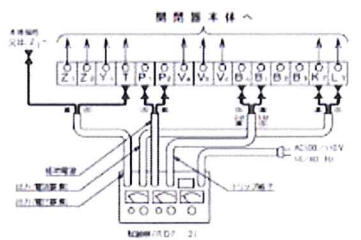
3-3 地絡動作の確認

VT・LA内蔵形、VT内蔵形

開閉器本体に内蔵されているVT（別添電源用圧巻器）は、定格負担25VAです。他の機器に接続すると電源容量が不足し、動作しなくなる恐れがあるため、試験器用の電源は必ず別途に準備し、試験器の補助電源を制御装置に印刷してください。

この時、制御口出線のP₁（黒色）、P₂（白色）を制御装置の端子より必ず外し、列したリード線は、短絡させないよう端末を絶縁テープ等で絶縁してください。

試験器を下図のとおり接続して試験端子から開閉器に徐々に試験電流及び試験電圧を印加してください。なお、試験電流及び試験電圧は定格周波数（50/60Hz）の電流を流してください。定格周波数以外の電流を流しますと、地絡動作電流値の誤差が大きくなります。特に、異常検出使用のとき注意が必要です。



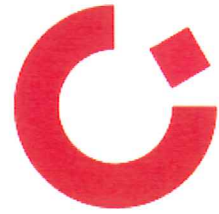
開閉器本体を開放させたくない場合は、V₁、V₂、V₃の制御口出線を外し、V₁ - V₂間の出力の有無で動作確認をしてください。
制御装置動作時は、約DC140VがV₁ - V₂間に出力されます。

動作特性試験を実施する場合は、使用する電源において下記のとおりご注意ください。正確なデータが得られない場合があります。

(両用電源を用いる場合) P₂に接地線を接続してください。
(専ら試験器を用いる場合) P₂を外を挿入してください。

試験実施時は、制御装置の端子から、VT（電源）への接続端子を切離しのうえ、試験することが定められている。

現地での主技からの聞き取りにより、「端子を切離しせずに実施した」との事実確認が取れている。
→端子（P1,P2）にかけた100VがVTを介して昇圧された。



中部電力パワーグリッド